

ひまわりからの メッセージ

120号

2021.9.12

NPO ひまわりの花内

西濃園域

祭事障がい支援センター

発行人：中野たみ子

夏から秋へ

過ぎてゆく日々の中で



今朝、ボンと鈍い大きな音がしました。「何の音かなあ。花火でもないし……。」と私が言うと主人が外に出て「あっ火事だあ。」と叫びました。外に出ると我が家の東から黒い煙が上がっています。二軒おいて東のお宅から火の手があがっていたのでした。

風が無かったので、黒煙はまっすぐに空に伸びており煙の中から炎が燃え広がっているようで、時折何かが弾けるような音が聞こえています。

そのお宅は、私が幼い頃によく遊びに行ったお家でした。当時、洗い張りをしておられたので庭先にはいつも反物が干してあって、その下をくぐって遊んだものでした。長い反物をピンと張るために、両はしに針がついた竹ひごを使って等間隔に止めてあって、乾く

と竹ひごを外して反物を取り込むのです。その作業がとても珍しくて、おばさんの片づけを手伝って竹ひごを集めたリしたものでした。もっともおばさんにとっては迷惑だったのでしょうか嫌な顔ひとつせず、可憐な顔で下さったものでした。今は息子さんの代になり、もう何十年も訪れたことがありませんでしたが、隣家のベランダに上がらせていただいで消火活動を見守り、遠い昔のことを思い出し、おばさんのことを懐しく哀しく思ったことでした。

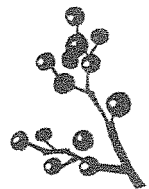
災害は、いつどこで起きるか分かりません。コロナウィルスという見えない敵との闘いも収束には程遠く、誰の身にも何が待っているのか予測はつきません。今朝の火災は、幸い類焼もなく、住民の方も無事だったことでしたが一人一人が不慮の災害への備えを必要としているのでしよう。

いつのまにか蟬の声は聞かれなくなり、草々に覆われたわが庭先には秋海棠や秋明菊が咲きはじめました。そう言えば今年夏水仙の花を見ませんでした。浜木綿も絶えてしまったのかもしれませんが、自然も少しずつ変化していき、時代は移り変わって行きます。

人それぞれに積み上げてきたもの、育んできたものに無駄なものはないのだと思えて、明日に向かって顔を上げて進んでいきたいですね。「コロナなんか」に負けてたまるか!!ですね。

成人期の相談から見る

子育ての大切さ



コロナ感染拡大のために、講演会や研修会は中止か延期、会議はリモート、公的施設の閉鎖などがつづいて、本当にウィルスにかき回されて、予定が次々と変更になります。でも、ワクチン接種も進み、オリンピックやパラリンピックも過ぎ去って、少しずつ平常に戻りつつある。等と樂觀視せず、第六波も覚悟しておきましょう。ヤンて八月は「ひまわりからのメッセージ」はお休みをいただくので、二ヶ月ぶりの発行です。この間に気がかったことがありますのでお伝えしておきます。

成人期の問題の難しさ

成人期の相談で多いのは、家庭内の問題です。暴れている、物を壊す、母や兄弟に手を上げるといったことです。しかし、幼い頃からおつと相談にのってきた方と違って、大人になってからの相談は、なかなか難しいのです。母と子の関係や、今までの育て方、家族の考え方など

わからないことが多いすぎます。どんな場面やどんなことばで怒りのスイッチが入るのか予測できません。子育ての中で私が常々考えてきたことやアドバイスしてきたことも、人によっては自分がせめられたと思うでしょうし、長い間家来となって日々を過ごしているお母さんに今更何を言ってもまた困らせるだけでしょう。親として踏んぱうなければならぬ時期がきつとあったでしょうが、今となっては何とかな一日一日を平穩に過ごすことで精一杯だろうと推察するのです。親亡き後のことを思うと暗澹たる思いになってしまいますが、でも私にできることは、話を聞くこと位なのだと思います。だからこそ幼児期からの子育てが大切なのです。

親が決めるべき事、子どもに決めさせる事

相談に来られる幼児や小学生の母子の中に気になる人がおられます。その方たちは、小さいお子さんにたずねられます。「どうしたいの？」そして、私には「自分の思いが通らないと私を叩いたりけつたりするんです。」と言われます。当然です。親が決めるべきことと子どもに決めさせることとの区別ができないようでは、先が思いやられます。子どもの側から言えば、「どうしたいの？」と私の意見を聞くじやないの、やりたいことをやって良いよってことでしょうか？」と考えてい

るのです。おそらく家庭のルールもなく、子どもの言いなりになって、次第に主従の関係になっていかれるに違いありません。「あなたは、そうしたいでしょうか、それは聞いてあげられないことです。」と言えるでしょうか？、子どもが自分の要求を通さうとして「ギャー」と言ったり、子どもの言う要求を通してしまふのでしょうか。

感情的にならずに、子どもの気持ちには共感しつつも、駄目なことは駄目だと通すことは大事なことです。子どもが小さい時にそれができなければ、将来もできないのだと考えた方が良くもれませんね。

子どもからの暴力について



昔は子どもをしつけるのに力で押さえつけようとする親がたくさん見受けられました。今は、虐待が疑われたり通報することが義務づけられています。ところが子どもが親に暴力をふるっても、よほどのことがない限り家庭内のこととして親さんの方が我慢してしまふことが多いようです。でも夫婦であっても親子であつても暴力はいけません。人を叩いたり蹴ったり、力で相手を従わせようとする行為は、例え幼児であつても許していくのは良くありません。

両親の行為をまねている子もいるかもしれませんが、

人に暴力をふるうことは駄目だということは、しっかり教えていきましよう。社会的に許されないことを許していくといふかは警察や病院への入院ということになりかねません。ことはやカードなど表出する手段はあるはずですが、何故そうなったのか理由や要因を探りながら、気持ちを表す手だてを教えていきましよう。親として子どもをこはいたいという気持ちは十分に理解できますが、力関係が逆転すれば、手に負えなくなってしまつて結局子どもを自立させられない人たちもたくさん見えました。

「僕は悪くない」の行きつく先は？

匿名で電話がかかってくる場合があります。そういう方は殆んど一方的に「僕は悪くない」と主張されます。相手の私かどの様な状況なのかお構いなしです。

小さい時から自分のことを主張し、自分は悪くない。親が悪い。友だちが悪い。先生が悪い……と言つて全てを人のせいにする人をどうしたらいいでしょう。「そうか、君はそう思うんだね」と共感してあげることは大事ですが、他にもいろいろな見方や考え方があつて示していく必要があつてます。「僕は悪くない」という考えのまま成人になつたりどうなるでしょうか。おそらく上司のアドバイスなんて

聞く耳をもたないし、下手すればパワハラだと言って訴えかねないでしょう。もし、そこに親さんが介入して「あなたは何も悪くないのよ」と味方になれば、ますます「僕は悪くない、相手が悪い」ということになっていくこともあります。

さて、そういう人を社会は受け入れていくくれるでしょうか。私は難しいと思います。自分の思いや意見を言うことが出来ることは良いことですが、相手の意見も聞き、取り入れていくことが出来る柔軟性も必要です。私がかかわった方の中には、自分の思いとちよつとも違ったことはが出されると激昂して大声を出して暴れる方がおられました。育つてきた環境の中で親も子もきちんと学ぶべき時がなかったのだろうかと心が痛みました。

今回書いたことは、ほんの一例にすぎません。でも幼児期からの気づきと、適切な支援、親子関係など、後になって「しまった!!」と思っても大人になってからではやり直しが困難になると、肝に命じておきましょう。

もちろん、思春期や反抗期には子どもの苛立ちは相当なもので親とぶつかったり一時的に暴力に走

ることもあるでしょう。その時その時に真剣に子どもと向き合うことです。逃げて子どもの言いなりになるのではなく、駄目なことはダメだと言える大人でありたいと思うのです。もう一つ書き忘れました。

スマホの管理は大丈夫？

友だちが欲しいけれど上手につき合えない子の中にはインスタグラムを通じて自己アピールする子がいます。けれどインスタグラムが誰かに保存されてしまうと、その情報は拡散されつづけてしまいます。子どもたちは深く考えずに情報発信してしまいますが、絶対に個人が特定されてしまう情報を出さないように、気をつけて下さい。世の中には悪い人もたくさんいます。親として大人として子どもたちを守っていく義務があるはずで、子どもたちの行動を見守って下さい。

特性をもつ子どもを育てる大変さ、難しさにつぶされそうになっているお母さんもうっしやるでしょう。そういう方は一人でかかえ込まないで相談して下さい。一緒に考えていきま

10月のセンター親の会

10月18日(月) スイートピアセンター 6階です。

